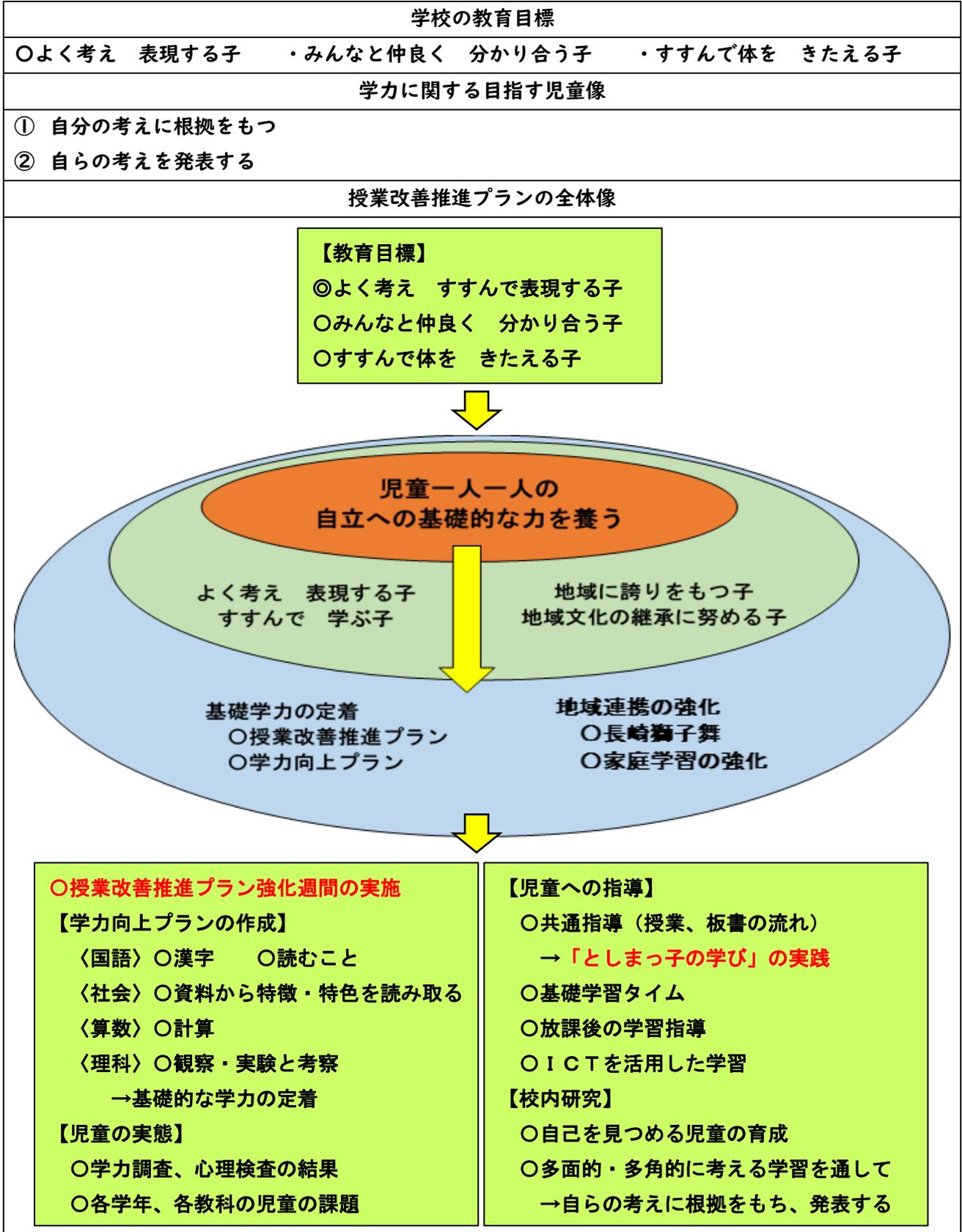


学校名 豊島区立長崎小学校

校長名 野村 佳男



令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
<p>①文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することができる。</p> <p>②他者と考えをすすんで伝え合い、自分の考えを広げることができる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<p>①生活経験の差による語彙力の差が大きい。</p> <p>②話を自分事として聞くことが難しい。</p>	<p>①読み聞かせの回数を増やしたり、絵カードを使って語彙を増やしたりする。</p> <p>②話す前に、自分の経験を思い出すよう声かけをする。</p>
低	<p>①自分の考えをもつことができるが、相手に伝える力に個人差がある。</p> <p>②自分の思いや考えを、文章に表したり、発表したりすることが苦手である。</p>	<p>①話合いの仕方や話型を提示する。</p> <p>②グループやペアでの話合いを多く設定する。 基礎学習タイムや朝の会のスピーチを活用して、「短い文章を考える」、「自分の思いを伝える」活動を繰り返し行う。</p>
中	<p>①自分の考えをもつことができるが、相手に言葉や文章で伝えることが難しい。</p> <p>②考えを伝えることはできるが、相手の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができない。</p>	<p>①グループやペアでの話合いを多く設定し、自分の考えを相手に伝える経験を増やす。 まとめ方・書き方の例を提示する。</p> <p>②グループやペアで自分の考えを伝え、互いに感想などを伝え合う活動を行う。 友達の考えに対しての自分の考えをもてるように聞き方の視点を提示する。</p>
高	<p>①筆者の主張を捉えることはできるが、それに対しての自分の考えを形成することができない。</p> <p>②考えを積極的に伝えることはできるが、相手の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができない。</p>	<p>①筆者の主張を支える事例を見付ける活動を行うとともに、その事例があるのとないのとでは筆者の「説得力」はどのように変わるのか気付かせる。 また、筆者の主張に対しての自分の考えと、友達の様々な考えに触れさせるために、交流の時間を確保する。</p> <p>②グループでの話合いを取り入れ、自分と友達の考えの共通点や相違点に気付かせる。また、「共有」の場面では、友達の考えのよいところや友達の考えに対しての自分の考えを書く時間を設定する。</p>

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力
<p>① 資料や調査活動を通して集めた情報を、適切に整理し、まとめることができる。</p> <p>② 課題を追究したり解決したりすることを通して社会的事象について自らの考えをもち、発表することができる。</p>

学年	現在の状況	改善のための取組
中	<p>①資料から分かることが適切に読み取れない。また、2つ以上の資料を組み合わせて読み取ることが苦手である。</p> <p>②課題について取り組もうとするが、自分の考えをもち、表現することが苦手である。</p>	<p>①教科書等の資料を提示する際、その資料から何が分かるかを確認、資料の読み取り方を確認する。また、資料から考えたことを発表させ、自分の考えをもつきっかけとする。</p> <p>②単元終わりのまとめでは、学習した内容だけをまとめるのではなく、自分の思いや考えも含めてまとめさせる。</p>
高	<p>①②いくつかの資料から共通点や相違点を見出し、社会的事象の特徴や働きなどを考え表現する力に課題がある。</p>	<p>①②資料から見えること、分かることだけでなく、自分が体験したことや経験したこと、既習事項などと比べながら、事実・事象と自分の考えをつなげて読み取らせる。</p>

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
<p>①見通しをもち、筋道立てて考えることができる。</p> <p>②数学的な表現を用いて、自分の思いや考えを伝えることができる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	<p>①問題文を読み取ることが難しい。</p>	<p>①ブロックやおはじき、絵カードなどの具体物を使って、問題文の場面を視覚的に捉えさせる。</p>
低	<p>①かさや長さなどの量感がないので、自分の考えをもつことが難しい。</p> <p>②自分の考えを言葉で表現することに差が大きい。</p>	<p>①「1dL」や「1cm」がだいたいどれくらいなのか、具体物や自分の体を使い意識させる。</p> <p>②まず自分の考えをもたせるために、具体物を用いたり図で表現させたりするなど多様な表し方を身に付けさせる。考えたことを、友達同士で伝え合う活動を多く取り入れる。</p>
中	<p>①考えの根拠となる基礎基本の知識の定着に個人差がある。</p> <p>②既習内容を生かして、ノートに説明を書いたり友達に説明したりする活動は意欲的に取り組む。</p>	<p>①既存の知識や定着した知識を問題解決に生かせるよう、自力解決のときにノートを振り返らせる。</p> <p>②意欲が継続するよう、学び合いの場を工夫し、友達の考えのよさに気付かせる。</p>
高	<p>①既習事項と関連付けて、本時のめあてを立てたり、解決の見通しをもったりすることが難しい。</p> <p>②式を図、言葉、表、グラフなどと関連付けて、自分の考えを筋道立てて説明する力に課題がある。</p>	<p>①導入時に前時の学習の振り返りを行うことで、本時の学習内容との比較をさせ、めあてを自分たちの言葉で立てられるようにする。</p> <p>②ペアやグループでの交流など学び合いを増やし、全ての児童に表現する場を設け、自分の考えとは違う表現方法を知る機会をつくる。一つの解法や表現方法で満足させず、与えられた時間の中で様々な方法で考えることを奨励する。</p>

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
①予想や仮説、実験結果の見通しなどを根拠にして実験計画の立案ができる。		
②予想や仮説と実験結果を基に考察し、自分の考えを発表することができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	①予想や仮説を基に解決の方法を発想する力が足りない。 ②実験結果を基に、考察を考えることが難しい。	①どんなことを確かめたいと思っているのか、子供たちの考えを整理し、手助けをしながら、グループで協働的に計画を立てさせる。 ②考察の仕方がイメージできる話型を用意して表現できるようにする。
高	①予想や仮説などを基にして、解決の方法を発想することはできるが、実験結果の見通しまで考えて実験計画を立てることに課題がある。 ②予想や仮説、実験の目的、結果から言えることを見直し解釈することや、個々のデータを全体的に見直し共通性や傾向性を見ていく力、それを表現する力に課題がある。	①立案した実験計画をグループや学級全体で話し合わせる場面をつくる。検討する際は、条件制御や結果の見通しに焦点を当てさせ、自分と異なる考えを受け入れながら多面的に再考し、より妥当な考えを作り出す力を付ける。 ②仮説と実験結果の関係を意識した考察の仕方がイメージできる話型を用意して、考えられるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
①思いや願いをもって身近な人々と関わり、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができる。		
②伝え合いや振り返りを通して、社会や自然のよさに気付くことができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	①入学前の経験の差による、習慣や技能の定着の差が大きい。 ②自分の思いや考えをもつことが難しい児童がいる。	①習慣や技能の習得、定着が早い児童に、手本や手助けをさせ、児童同士で関わり合いながら、習慣や技能を身に付けさせる。 ②例をたくさん提示し、選択できるようにする。
低	①生活上必要な習慣や技能を身に付けるためのよりよい方法を考えることが難しい。 ②自分の考えをもつことはできるが、多角的に考えることが難しい。	①振り返り(気付きや疑問等)の時間を多く設定し、次の学習活動へ繋がられるようにする。 ②グループやペアでの話し合いを多く設定し、一人一人の気付きを共有する中で、全体の気付きに変えていく。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
①音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の思いや考えをもつことができる。 ②友達と協働しながら、すすんで音楽表現の工夫について伝え合ったり、表現したりすることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	①基本的な知識・技能が定着していない。 ②友達と楽しみながら、音や身体の動きで表現することはできるが、言葉で表現したり伝えたりすることは難しい児童がいる。	①楽器の使い方は、掲示物やタブレット端末を活用して視覚的に分かりやすく提示する。 ②感じたことや聴き取ったことと、それを基に考えたことについて伝え合う活動を増やし、よい発言を価値付けていく。
中	①思いを表現するための基本的な知識・技能の定着に個人差がある。 ②表現の工夫について自分の考えをもち、伝えることはできるが、ペアやグループの友達との合意形成がうまくいかない場面がある。	①楽譜の読み方や楽器の奏法等について、常時活動で毎時間繰り返し取り組ませ、定着を図る。 ②事前に個人で考えた意見を教師が整理して提示したり、グループで話し合う際のよい場面を価値付けたりすることで、多様な考えを尊重しながらも折り合いを付けられるようにする。
高	①中学年までの器楽や歌唱の技能の積み重ねに偏りがあり、以前の学びを生かし切ることができない。 ②音楽表現を通して自分の考えや思いを発信することに消極的な児童がいる。	①児童同士で教え合ったり、得意なことを生かした楽器選びやパート編成をしたりすることで、自分の技能に合わせた学習ができるようにする。 ②ペアやグループで演奏を聴き合ったり、タブレット端末を活用して録音や録画をしたりして、音楽表現の効果を実感できるようにする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
①造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想し、表現することができる。 ②自他の作品などの見方や感じ方を深め、伝え合うことができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	①対象物を大まかにとらえて表現することに個人差がある。 ②自分の作品の工夫したところは発表できるが、友達の作品のよさを見付けることが難しい。	①何度も繰り返して描いたり作ったりすることで、表現することへの抵抗感をなくす。 ②作品を鑑賞する際、形や色、美しさなど鑑賞する視点を提示する。
中	①前学年までの材料や用具についての経験を生かすことに個人差がある。	①児童が積極的に材料や用具を生かし、手や体全体を十分に働かせ表したいことに合わせて表し方を工夫できるように、造形遊びの要素（試す）を授業に取り入れる。

	②作品のよさを伝えることに積極的な児童が多いが、友達作品のよさに気付き深めることに消極的な児童もいる。	②鑑賞の機会（制作中、制作後など）を意図的に設定し、友達と交流しながら、自然と作品のよさを伝え合い、思いや考えを深められるようにする。
高	①表したいことを実現するための構想・表現力に個人差がある。 ②自他の作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることに個人差がある。	①思いを形にできるようにワークシートなどを活用し、構想しながら自分なりの表現ができるようにする。 ②鑑賞の機会（制作中、制作後など）を意図的に設定し、鑑賞の視点を示し、友達と交流しながら自他のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深められるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
①日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考えることができる。		
②他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして、よりよい方法を判断・決定できる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	①日常生活の中から問題を見い出す力に差がある。 ②思いや考えを伝え合うことはできるが、よりよい方法を判断・決定することに課題がある。	①自分がどのように生活したいか、自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものかなど、多角的な視点で考えさせる。ペアやグループでの話し合いを取り入れ、多様な考えを出し合わせる。 ②自身の生活や経験と結び付けて考えさせたり、体験的な学習を通して気付かせたり、タブレット端末を活用して多様な思いや考えに触れさせたりする。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
①課題を見付けながら運動することができる。		
②工夫したことを伝え合うことができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	①基本的な運動技能が身に付いていない。 ②工夫したことを相手に伝える力が身に付いていない。	①準備運動や補助運動の中で、運動量を確保しながら主運動につながる動きを取り入れる。 ②ペアやグループで伝え合う場を設ける。伝え方を提示する。
中	①自己の課題を見付けることができない。	①動きのポイント等がかかれた学習カードを用意する。タブレット端末で自分の動きを撮影し、確認する。

	②運動する際の、体の使い方の個人差が大きい。	②タブレット端末を活用し、自分の動き方を知ること、課題を見付けたり工夫したことを伝えたりする。
高	①毎時間、自分の課題を意識して取り組むことができない。 ②器械運動系における技のポイントや、ボール運動系におけるよりよい動きなどを理解して取り組むことができない。	①学習カードやタブレット端末を活用し、めあてを設定させる。また、振り返りの時間を充実し、「今日できたこと、次に取り組みたいこと」を意識させる。 ②器械運動系では、ペアやトリオでの学習を取り入れ、技のポイントを伝え合う時間を確保する。ボール運動系では、チームで作戦を考える時間を確保したり、よい動きをしているチームを全体で取り上げたりする。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
②外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができる。簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合ったり、話したりすることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	②楽しみながら授業に取り組んでいるが、英語を使ってコミュニケーションをとることは難しい。	②簡単な単語を使ってコミュニケーションをとれるようにするために、朝の会や帰りの会、クラスルームイングリッシュなど日常的に繰り返し聞いたり使ったりする場を設ける。
中	②英語を用いてコミュニケーションをとることを楽しんで行う児童は多いが、既習の表現方法の定着具合に差がある。	②Activityなどで既習の表現方法を活用して伝え合う活動を行う。
高	②自らの考えを英語で表現するための十分な語彙や表現を身に付けていないため、積極的にコミュニケーションを図ることが難しい。	②「聞く→話す→読む→書く」の順序性を踏えながら、練習から言語活動へと徐々に重心を移していく。既習表現を繰り返し使用できるようにスモールトークを導入で行い、言語材料の定着を図る。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
①自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを想起して考えることができる。		
②自分の思いをすすんで伝え、他者の思いを受け止めることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	①生活体験の差から人物の気持ちを考えられない教材がある。 ②自分の考えはもてるが、相手の考えを認めることが難しい。	①教師が身近な日常生活のことに置き換える。 ②多様な考えがあることが道徳のおもしろさであることに気付かせる。

中	<p>①ねらいとする内容項目について、自分事として考えることに課題がある。</p> <p>②自分の思いを発言することについて、個人差がある。友達の思いを肯定的に受け入れられない児童がいる。</p>	<p>①導入や終末の指導を工夫することで、実生活と関わらせて考えさせる。</p> <p>②主発問での学習活動を工夫したり(ペアでの伝え合い、役割演技など)、タブレット端末を活用したりすることで、自信をもって発言できるようにする。友達の思いを聞くときの相づちの仕方などを掲示する(「聞き方名人」など)。</p>
高	<p>①自分自身の体験から、自分の考え方や感じ方について深く考えることができない。</p> <p>②自分の思いをすすんで伝えることはできるが、他者の思いを受け止めることができない。</p>	<p>①自分の正直な考え方や感じ方を表現できるように、発問の仕方や導入を工夫したり、アンケートを事前にとったりする。</p> <p>②話合いの工夫をし、討議形式、ペアやグループでの話合いを取り入れる。多様な考えを受け入れる姿勢、話の聞き方を提示する。</p>

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
<p>①「人」「もの」「自然」と豊かに関わる体験を通して、言語を活用し他者と協働して問題解決や探究活動に取り組み、自己の生き方について考えることができる。</p> <p>②相手に伝えたいことを明確にし、工夫しながら表現することができる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	<p>①他者と共同して問題解決や探究活動に取り組むことに課題がある。</p> <p>②相手を意識した発表に課題がある。</p>	<p>①グループで問題解決や探究活動に取り組ませる。</p> <p>②他クラスや他学年・外部へ向けた発表の機会を設定する。</p>
高	<p>①学習を通して自らの生活や行動について考えるところまで到達していない。</p> <p>②他者との共同学習において、自己を振り返り、自分の考えや意見を再構築することができない。</p>	<p>①学習活動の中で、具体的な問題を多様な視点から考えさせ、常に自己との関係で見つめ、振り返らせる。</p> <p>②身近な問題について、児童だけでは解決できない課題を意図的に設定し、他者と共同して解決する活動を経験させる。</p>

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
<p>① 話合いの課題の発見や解決を行う上で、自分の考えをもち、表現することができる。</p> <p>② 友達の意見をよく聞き、自分の意見と比べ合ったり多様な意見のよさを生かしたりして、考えたことを実践できる。</p>		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	<p>①②集団で話し合うときに、自分の考えを伝える力に偏りがある。</p>	<p>①②賛成、反対を考えて一人一人が自分の意思表示をする場を設ける。話合いの前に議題の内容を</p>

		共有して、考える時間を確保する。
中	①②友達の意見をよく聞き、自分の意見と比べることが難しい。	①②まとめる意見や付け足し意見の話型を提示して話合いで実践できるようにする。
高	①②学級や学校の生活をよりよくするための課題を見い出すことができない。合意形成を行いながら話合いを進めることができない。	①②学級会を軸として、議題を集めたり、課題を解決するために話し合って実践したりすることを繰り返し行い、「みんなで話し合ってよかった」と思えるような達成感を繰り返し経験させる。

1 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在までの実施状況	今後の取組
低	<ul style="list-style-type: none"> 週に4回程度、朝学習の時間に交流している。 2年生で、特別支援学級、特別支援教室に関する啓発授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等で交流及び共同学習を計画し、実行する。 希望があれば、通常の授業にも参加させる。
中	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級の朝学習と朝の会に、週3日参加している。 保護者から希望があった児童は、算数や道徳で通常学級の授業に学期に1回参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級担任と計画を立て、理科で1～2単元、共同学習を行う。
高	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級の朝学習と朝の会に、週3日参加している。 高学年は、移動教室や校外学習で交流及び共同学習を行った。 王子特別支援学校との副籍交流を通常学級で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期、4年生は理科と算数、5年生は理科で共同学習を行う。
全	<ul style="list-style-type: none"> 王子特別支援学校による出前授業を行う。王子特別支援学校との副籍交流を知的固定学級で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 王子特別支援学校在籍児童とその保護者の要望を聞きながら、継続して連携する。